

機関名: (地独)北海道立総合研究機構水産研究本部

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	●エソパソウニの出荷量は前年の1～5割程度に落ち込んでいる(檜山北部・後志北部・利尻)。 ●ブリが豊漁(70トン、後志北部)。 ●イカ漁獲量が前年1～5割程度(奥尻・後志南部・北部)。 ●養殖及び天然コンブが減産(利尻)。 ●ヒラメ漁獲量は6.7トンと前年の約2倍(檜山北部)。 ●過去最大級の体重316kgのマグロが漁獲されたが、漁獲量は前年の4割減で、大型魚が多かった(渡島西部)。	●水温:7月は平年より1～5℃高く、8月も1～3℃高かったが、9月は平年並みで推移した。平年差は日本海南部ほど大きかった(日本海沿岸)。 ●大謀網に約100kgのクロマグロ、ナンヨウカイワリ及びウスバハギ(全長35cm、1.2kg)が入網(後志北部)。 ●ホシフグが底建網でが漁獲(檜山北部)。 ●トビウオ(種不明)の目撃情報が複数のホタテ漁業者から寄せられた(留萌南部)。 ●サケ定置網にムラサキダコが入網(石狩)。	●採苗器1袋平均1,500個体(過去最高)のホタテ稚貝が付着した。	●なし

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	イシモズクの漁獲生産量が昨年の半分であった(主な産地の漁獲状況は別紙のとおり)。	特になし	特になし	特になし

機関名: 秋田県水産振興センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	特になし	●9月の大型クラゲ来遊数は1,000個体で、過去3か年の同月における0～6個体に比べて大幅に増加した。 ●珍種の漁獲 ・ノコギリガザミ属漁獲(7月、由利本荘市沿岸)	特になし	特になし

機関名: 山形県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	海藻類でモズクが平年比で7月が25%、8月が5%と非常に不漁であった。サワラが9月に平年比513%と多獲された。	9月初旬から大型クラゲの底びき網や定置網への入網が続いており、操業への支障が出ている。	特になし	特になし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	●8月中旬～9月、寺泊と間瀬地区の水深150m付近の海域で小型のアブラソノザメ(TL30～50cm)が大量に混獲。刺網と吾智網の操業に支障が生じた。多いときは刺網に千尾程かかり、このような現象は過去に経験がない(漁業者談)。	特になし	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 福井県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	特になし	福井県神子地先の、月平均表面水温は、7月は26.7℃、8月は29.4℃、9月は26.9℃と高かった。 過去(30年平均)との比較を行ったところ、7月および8月は2℃程度、9月は1℃程度とそれぞれ過去30年平均を上回った。また、7月と8月は近年10年(平成16年～25年)で最高を記録。8月に関しては過去最高(昭和41年以降)。	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	●8月の定置網によるカンパチ(未成魚)漁獲量が35.7トンと多かった。これは直近5年の年間平均漁獲量10.2トンの3.5倍であった。	●京都府沿岸の水温(0～50m平均)は、8月が25.3℃で観測開始(1964年)以降の最高値、9月が27.2℃で2007年に次ぐ2番目に高い値であった。	●8月上旬から9月中旬にかけて、府内の沿岸域で平年を約2℃以上も上回る高水温(28℃以上)が長期間続いた。その結果、その影響と推測される大量への死が種苗生産中のアワビ稚貝に発生した。	●台風18号の通過により、複数の定置網で破網等の被害が出た。主な原因は波浪、河川からの流水等に加え、やや早い流れが生じたための考えられた。

機関名: 兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	【境港まき網】 ●本年の夏場のクロマグロの水揚げは、例年より早く7月24日で終了した。7月の水揚げ量は592トンであり、6～7月の漁期中の総水揚げ量は1,333トンで、2012年の583トンを大きく上回った。	鳥取県沖合の海面水温は、平年より約1～2℃高く推移した。	特になし	特になし

機関名: 鳥取県栽培漁業センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	シイラの漁獲が多かった。	ムラサキイカが大量に打ち上げられた。範囲は鳥取県全域に及ぶ。 沿岸水温(センター沈砂槽水温)が7月下旬から8月下旬にかけて平年より2℃以上高かった。特に8月中旬は2.9℃高かった。	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	特になし	●7.8月の浜田の水温は、それぞれ平年差+1.8℃、+2.8℃でかなり高めでした(10年に一度の確率)。7.8月の恵曇の水温は、それぞれ平年差+1.9℃、+3.1℃でかなり高めでした(10年に一度の確率)。	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成25年 7月～9月	特になし	萩市沖表層水温が8月中旬と下旬に1964年以降最高を記録した(8月中旬平均値29.62℃、下旬平均値29.74℃)。 8月中下旬に高水温の影響により、日本海沿岸全域で主要なアラメ・カジメ場がほぼ壊滅状態となっている。	特になし	特になし